

秋山孝ポスター美術館 長岡

秋山孝：鮮やかな色彩が伝えるメッセージ

秋山孝（1952-2022）は、ユーモアと社会批評を織り交ぜた鮮やかな色彩のポスターで知られるグラフィック・アーティストです。長岡に生まれ、青果店の家族に育ちました。多摩美術大学と東京藝術大学で学び、後に多摩美術大学グラフィックデザイン科の教授となりました。幼少の頃、長岡・摂田屋の機那サフラン酒製造本舗の蔵で見た漆喰の浮き彫りに影響を受け、各作品は限られた色数を使用していることが特徴です。彼のポスターの多くは、現代的な問題に注目し、反戦や自然保護のメッセージを強く伝えています。また、長岡の名所を題材にしたポスターも数多く制作されました。

秋山氏は国際的なアート・デザイン・コンペティションで数々の賞を受賞し、世界各地のポスター展で審査員を務めました。2009年には故郷の旧銀行ビルに「秋山孝ポスター美術館長岡」を開館し、イベントや研究、展覧会を通じて若手アーティストの育成に力を注ぎました。逝去に際し、秋山氏は芸術鑑賞と奨学の継続的な支援のため、美術館を市に寄贈しました。

美術館

高さ 5 メートルの展示室に秋山孝の作品を展示するため、美術館内部を改装。壁一面にポスターが展示され、中央のテーブルには様々な展覧会のカタログが展示されています。展覧会によって、立体作品を含む他の作品に合わせてレイアウトが変更される場合があります。開館時間は午前 9 時から午後 5 時まで（火曜休館）、入場は無料です。写真撮影は可能です。

銀行として使われていた名残である分厚い金庫室のドアが、ギャラリースペースと小さなギフトショップやカフェスペースを隔てています。ギフトショップでは、秋山氏が長岡の風景や動物をカラーで描いたポストカードなど、本や小さな土産物を販売しています。カフェではドリンクやアイスクリームなどのシンプルなメニューがあります。

旧銀行ビル

美術館は、1925 年に建てられた旧長岡商業銀行（後の第四北越銀行）の建物を利用しています。この建物は 20 世紀初期の洋風建築を代表する登録有形文化財です。鉄筋コンクリート造りで、鉄骨トラス構造の屋根とレンガを模したタイル張りの外壁が特徴。建物の南側には、2004 年の中越地震で損傷を受けた分厚いガラスの窓が、建物の生存を証明するように新しい窓の下に保存されています。北側の壁には、第二次世界大戦の長岡空襲の火

災に遭遇した焼け跡がうっすらと残っています。当時、銀行を取り囲む建物のほとんどが木造であったため、摂田屋地区に向かって火が燃え広がりやすい状態でした。燃えにくい銀行が防火壁の役割を果たし、摂田屋とその何世紀も続く伝統的な事業が大きな損失から守られたと言われています。